

第37回地盤工学研究発表会を終えて

松井 保 (まつい たもつ)

大阪大学教授 大学院工学研究科



1. はじめに

第37回地盤工学研究発表会は、関西支部として担当する4回目の研究発表会であるが、地元大阪市内で開催するのは、1966年の第1回研究発表会以来、実に36年ぶりの開催である。実行委員会では、関西支部所属の会員により準備委員会を発足させ、開催場所の決定、実行委員会の組織化(表-1参照)を行い、具体的な実施計画を作成し、7月16~18日の大阪国際会議場(グランキューブ大阪)での開催を目指した。

最終準備を大会前日の7月15日に行ったが、折りしも台風7号が九州南部から関西を中心として大会初日朝に通過するとの予報であったため、実行委員の方々には16日未明まで、初日の行事変更あるいは中止も視野に入れて、緊張した時間を強いることとなった。幸いにも、台風は紀伊半島南方へそれて通過し、奇跡的に晴天下で本研究発表会を開催することができた。

2. 実行委員会の企画

本研究発表会を関西で開催するにあたり、以下のようない点にも配慮することが重要であると考え、企画を立案した。

- ① 2005年9月に国際地盤工学会議が大阪国際会議場で開催される予定である。
- ② 上記会議を意識し、出来るだけ国際性に富む行事を開催する。
- ③ 逆風の社会情勢であるがゆえに、本研究発表会行事において、参加者のニーズをできるだけ反映するとともに、地盤工学・地域の活性化につながる諸行事を企画する。

偶然にも、今回の研究発表会を機に、従来の発表講演集がCD-ROM化され、従来とは全く異なる会議運営方法となること、2001年度に新しく選任されたヴァン・インペ(van Impe)国際地盤工学会会長およびテイラー(Taylor)事務局長が、2005年会議の準備状況の視察も兼ねて、本研究発表会期中に来日される機会に、国際講演会を開催すること、およびアジア地域を対象とした国際ディスカッションセッションを開催することなど、今回の研究発表会から新しくスタートする、国際性にも配慮した諸行事の内容が決まった。

地盤工学・地域の活性化については、『あすのくらしを支える地盤工学【防災・環境・関西の歴史と未来】』として、一般市民にも訴えることのできる大会キャッチフレーズ(テーマ)を採用するとともに、このコンセプ

トに即したシンボルマーク(口絵写真-1参照)を作成した。開催会場では大規模な展示スペースがあるため、技術展示参加を幅広くお願いしたところ、119ブースの参加申し込みがあり、最終的には参加断念をお願いした機関もあった。また、これを機に、関西だけでなく、幅広い会員へのサービスも意識して、新しい企画であるインターネット展示も実施し、54ブースが出展された。

また、地球温暖化問題に関する特別講演、名称一新の交流会、4コースからなる見学会、ビデオ上映など、参加者のニーズに対応した非常に充実した研究発表会の行事内容を企画することができたと考えている。

3. 研究発表会の開催状況

本研究発表会には、1220編の論文発表があり、第1回研究発表会における45編の実に27倍もの発展ぶりであった。参加登録者数は当日参加申込者も含め、2174名であり、近年の研究発表会に比べても遜色のない結果となった。研究発表会場を1つの建物に集約できた結果、3日間実施した各研究発表会セッションへの延べ参加人数が8000名を超える盛況ぶりであった。

技術展示コーナーは、多くの出展者を得たこと、また出展者の交流や入場者へのサービスも考えた屋台やドリンクコーナーなどの多くの企画が非常に好評であり、大会3日間を通じて約7000名もの入場者を記録した。また、インターネット展示コーナーも大きな興味を持たれたようで、地盤工学会のホームページに掲載したこのコーナーに非常に多くのアクセスがあった。

特別講演(浅岡美恵氏)は温暖化による地球環境問題に関する時機を得た講演テーマであり、一般参加者80名を含め約700名という、多数の参加者を得ることとなった。また、今大会から懇親会を交流会へと名称変更して開催したが、総勢641名の参加者を得て、アンサンブルシヴィルの端麗な演奏とあわせて、本大会を象徴する盛会であった。

見学会は、定員40名で締め切った見学コースもあるなど、各コースともアンケートで好意的な回答を得ており、関西の地盤工学を理解してもらうためにも良い企画であった。また、ビデオ上映でも大会キャッチフレーズに即した内容のビデオを30本上映し、好評を得た。

以上の本部主催行事のほかに、関西支部によるアジア地域留学生の交流を目的とした、アジアジオテク交流会(約30名参加)が大会初日に開催されるなど、多彩な行事が行われた。

4. おわりに

以上に述べた諸行事の企画・実施に際しては、実行委員会委員各位、担当部会の多くの委員、および本部をはじめとする関係各位には大変な努力をしていただいた。誌面をお借りしてここに厚くお礼を申し上げます。

なお、冒頭に述べたように、大阪での開催は実に36年振りであり、交流会における閉会挨拶は関西支部長の星野鐘雄氏にお願いしたが、壇上での万歳三唱には、第1回研究発表会開催時の関西支部長であった調強氏にも、90歳を超えられたとは思えぬ元気な声でご唱和いただいた。これまでの地盤工学研究発表会の成長を感じるとともに、将来へのますますの発展を期待する次第である。

(原稿受理 2002.9.18)

表-1 第37回地盤工学研究発表会の実行委員会組織図

実行委員会			
役 割	氏 名	所 属	備 考
実行委員長	松井 保	大阪大学	
委員兼幹事長	田中 泰雄	神戸大学	総務部会長
委員兼幹事	谷本 親伯	大阪大学	研究発表講演部会長
委員兼幹事	内田 一徳	神戸大学	技術展示部会長
委員兼幹事	岡 二三生	京都大学	特別講演交流部会長
委員兼幹事	早川 清	立命館大学	行事事務部会長
委員兼幹事	佐藤 忠信	京都大学	財務部会長
委員兼幹事	小田 和広	大阪大学	本部調整部員
委 員	佐野 正道	近畿地方整備局	(前委員 横田 耕治)
委 員	小河 保之	大阪府	
委 員	山口 昇	兵庫県	
委 員	五十嵐英男	大阪市	(前委員 仙波 惇)
委 員	竹山 征治	神戸市	
委 員	牧浦 信一	日本道路公団	(前委員 小川 篤生)
委 員	北川 信	本州四国連絡橋公団	
委 員	北沢 正彦	阪神高速道路公団	
委 員	松本 正毅	関西電力㈱	
委 員	北村 八朗	大阪ガス㈱	(前委員 中島 一夫)
委 員	鎌田 敏正	NTT	
委 員	池田 靖忠	西日本旅客鉄道㈱	
委 員	林 洋介	関西国際空港㈱	
委 員	田宮 芳彦	(社)日本土木工業協会関西支部長	
委 員	朴 慶智	(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部長	(前委員 片瀬 貴文)
委 員	舟木 士郎	関西地質業協会理事長	
委 員	星野 鐘雄	(社)地盤工学会関西支部長	
顧 問	(社)地盤工学会関西支部顧問会		

運営幹事会：実行委員長、各部会長、本部調整部員および各部会幹事等で構成

総務部会			研究発表講演部会			技術展示部会		
役 割	氏 名	所 属	役 割	氏 名	所 属	役 割	氏 名	所 属
部会長	田中 泰雄	神戸大学	部会長	谷本 親伯	大阪大学	部会長	内田 一徳	神戸大学
幹 事	前川 太	㈱ニュージェック	幹 事	建山 知由	京都大学	幹 事	安藤 進	鹿島建設㈱
幹 事	東 祥二	不動建設㈱	幹 事	鍋島 康之	大阪大学	幹 事	岡井 大八	大阪ガス㈱
委 員	小田 和広	大阪大学	委 員	青木 一男	大阪工業大学	委 員	高木 正広	近畿地方整備局
委 員	河端 俊典	神戸大学	委 員	芥川 真二	神戸大学	委 員	藤村 正純	近畿地方整備局
委 員	田河 寧之	大阪府	委 員	大島 昭彦	大阪市立大学	委 員	岡崎 安志	大阪高速
委 員	尾山 達巳	大阪市	委 員	勝見 武	京都大学	委 員	甲元 克明	阪神高速道路公団
委 員	浜田 信彦	阪神高速道路公団	委 員	佐野 郁雄	大阪産業大学	委 員	長谷川靖明	関西電力㈱
委 員	長田 文博	西日本旅客鉄道㈱	委 員	田中 誠	(財)地域地盤環境研究所	委 員	湯室 和夫	鹿島建設㈱
委 員	高橋 正浩	京阪電気鉄道㈱	委 員	西形 達明	関西大学	委 員	岡本 尚史	㈱大林組
委 員	岩元 仁	阪急電鉄㈱	委 員	久武 勝保	近畿大学	委 員	先森 昭博	㈱鴻池組
委 員	進輪 賢治	㈱大林組	委 員	三村 衛	京都大学	委 員	榎原 範明	大成建設㈱
委 員	國富 和真	㈱鴻池組	委 員	川崎 了	大阪大学	委 員	村上 育子	鹿島建設㈱
委 員	浅田 承扶	不動建設㈱	委 員	伊藤 譲	摂南大学	委 員	山見 晴三	清水建設㈱
委 員	大本 修	パシフィックコンサルタンツ㈱	委 員	乾 徹	京都大学	委 員	榎本 雅夫	基礎地盤コンサルタンツ㈱
委 員	李 圭太	㈱建設技術研究所	委 員	加藤 正司	神戸大学	委 員	高崎 廣明	現場計測コンサルタンツ協会
委 員	本田 道謙	㈱日建設シビル	委 員	岸田 潔	京都大学	委 員	八谷 誠	中央復建コンサルタンツ㈱
委 員	曾根 照人	㈱ニュージェック	委 員	鳥居 宣之	神戸大学	委 員	山根 昭彦	現場計測コンサルタンツ協会
			委 員	西 元史	大阪市立大学	委 員	辻 宏祐	現場計測コンサルタンツ協会
			委 員	西山 哲	京都大学			

注) 1)前委員

特別講演交流部会			行事事務部会			財務部会		
役 割	氏 名	所 属	役 割	氏 名	所 属	役 割	氏 名	所 属
部会長	岡 二三生	京都大学	部会長	早川 清	立命館大学	部会長	佐藤 忠信	京都大学
幹 事	小高 猛司	京都大学	幹 事	大河内正博	大阪市	幹 事	長屋 淳一	(財)地域地盤環境研究所
幹 事	李 圭太	㈱建設技術研究所	幹 事	高田 佳彦	阪神高速道路公団	幹 事	中井 卓巳	㈱アーステック東洋
委 員	林 正一	近畿地方整備局	委 員	北川 竜三	本州四国連絡橋公団	委 員	濱田 耕一	大阪ガス㈱
委 員	吉備 敏裕	大阪府	委 員	奥田 豊	関西国際空港㈱			
委 員	太田 拓	大阪市	委 員	小原 和浩	阪神電気鉄道㈱			
委 員	北澤 俊彦	阪神高速道路公団	委 員	宮坂 昌仁	南海電気鉄道㈱			
委 員	吉田 信之	神戸大学	委 員	朝長 秀樹	近畿日本鉄道㈱			
委 員	中村圭二郎	西日本旅客鉄道㈱	委 員	長田 文博	西日本旅客鉄道㈱			
委 員	鎌田 敏正	NTT	委 員	村雲 敦司	東洋建設㈱			
委 員	三敏 晃	関西電力㈱	委 員	岡村 正典	㈱奥村組			
委 員	東尾 啓司	鹿島建設㈱	委 員	本田 周二	㈱日建リサーチ			
委 員	日下部史明	不動建設㈱	委 員	今田 和夫	㈱フジエレクトロニクス			
委 員	東本 光生	大阪府	委 員	高谷 吉雄	大阪市			
委 員	南荘 淳	阪神高速道路公団	委 員	二宮 仁司	本州四国連絡橋公団			
			委 員	松井 光市	関西国際空港㈱			

注) 1)前委員 2)当日委員